



# 平青年團の表彰團員

## 十五日の總會に

既報十五日の平青年團春期總會に於て表彰される各分團員は左の如くである

- 一丁目永澤義一 二丁目關内平太郎 三丁目加藤欽一郎 五丁目小野榮一 六七丁目鈴木始 十七區佐藤幸太郎 長橋寒風澤國治 南町藤田專吾 城山鈴木晴之 新川町山名隆雄 月見町伊藤喜一郎 杉平胡藤澤鈴木政雄 堤之内深谷喜八 白銀尾形要治 大工町丹野鶴藏 材木町渡邊政敏 十六區池田庄五郎 田町金子重次 搔樋小路門馬淺次郎 鍛冶町松本翁之助 北目佐藤繁 本團旗手中川正長

# 製炭を制限

濱三郡木炭同業組合に於ける四月中の製炭俵数は石城が七万二千五百一俵、双葉は七万四千五百十七俵、相馬二万三千四百七十三俵、合計十六万八千二百四十一俵で昨年同期の廿一万九千六百六十二俵よりは四万二千餘俵の減数を示して居るが

# 販賣利用組合事務所移轉

農業倉庫に

石城販賣利用組合では從來の十五丁目の團体事務所は狹隘を感じて居たので田町一番地平農業倉庫に移轉すべく過般縣に是が申請中であつたが去月廿七日付を以て許可の通牒を受けたので目下移轉準備中である

# 御演習の兩殿下

同窓生徒等と變りなく 夜は十一時頃迄御勉強

既報石城郡内小名濱方面に於ける陸軍士官學校の實測演習は本日の空中寫真による地圖測量を以て一週間に亘る演習を終了し十四日午前十時卅五分湯本驛發臨時列車にて歸校する事となつたが同演習に御參加あらせらるゝ朝香宮宇彦王殿下は泉驛より李鍋公殿下は湯本驛より同列車にて夫々御歸京あらせられるが演習中に於ける兩殿下の御生活は一般學生と何等變る事なく夜間は十一時頃迄御勉強あらせられしと承る

# ドモリ矯正

平各中等學校で

平町各中等學校にては今期夏休を利用して山形縣高島町新興吃音學院主事小野芳彦氏を囑託として吃音を矯正する爲め吃音者調査した處に依ると各學校の現在数は

の種蒔は各部落共八、九十日に行はれ目下發育良好を見てゐるので病虫害なき限り苗不足を見る模様な事もなく順調な收穫を見られる模様である

# 平第二校で父兄懇親會

平第二小學校にては来る二十三日午後一時より父兄懇親會を開催すると

# 稚草栽培講習

郡永戸村及び箕輪村農會では郡農會柴田技手を講師として十一、二の兩日左記箇所にて稚草栽培講習會を開催した

# 小川苗代良好

郡上下小川村に於ける苗代

# 産業五ヶ年計劃に養蠶の資料を提出

石城郡泉村の十氏に囑託

政府では過般發表した産業五ヶ年計劃のうち養蠶業の資料調査を全國主要養蠶地方より集めて居たが石城郡泉村及び伊達郡伏里村が本縣の代表的養蠶地として各十名宛の養蠶家が參考資料を提出する事になつたと

# 小川春蠶掃立

郡上下小川村に於ける春蠶掃立は下小川字柴原部落の八日を最初として大体十日迄に全村の掃立を終つたが各養蠶家は蠶承安を見越して掃立数を控へて居るので

# 江名町の種痘

郡江名町では本年度の種痘を去る九十の兩日同町小學校に於いて執行近く第二回の種痘を行ふべく準備中

# 二俣神社修繕

郡小川村字下小川鎮座神社二俣八幡神社の屋根は從來草葺であつた爲め毎年修繕が容易でないで同社氏子連は十三日同社内に總代會を開催銅葺に修築する事を

協議廿日頃よと着工する事になつた

# 虎眼患者絶無

郡上下小川では去る十日午前八時より同村戸渡分校生徒及職員らのトラホーム検査を行つたが成績頗る良好で一名の患者をも出さなかつた

# 郡下小學校教員會

## 愈よ十五日創立

郡下小學校教員會創立總會は既報の如く来る十五日午前十時より平第一小學校に於て左記の順序に依り開催される

- 開會の辭 國歌合唱 勅語奉讀 發起人挨拶 設立の趣旨 全國聯合小學校教員會事業概況報告 會則制定 役員選舉 新任役員の挨拶及祝辭 閉會

# 磐中野外演習

中學校二學年生二百四十八名は来る十九日好間村を中心として野外演習を行ふと

# 詩南社舞子へ

平町五丁目詩南社にては来る十五日(第三日曜)に新舞子へピクニックを行ふと

# 平職業紹介所報告

求人部  
△女中 三十迄 尋卒 給料面談(平町某)  
△職見習 十六才 高卒 仕着小使(平町某)

日、土講習會は開催中止

石城郡第三區教育事務協議會にては本年度より日土講習會を開催する事に決定した事既報の如くであるが講師派遣を其筋へ交渉した處申込多數あり應じ兼ねる旨の回答に接したので遺憾乍ら開催不能になつたと

# 募一二勇士

## 募一二勇士 弔慰金の

一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます  
二、右弔慰金は平驛前九ツ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ  
三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

主唱 阿部政右衛門  
後援 常磐毎日新聞社  
寄附者芳名 第卅一回分

同 瀧田村 渡邊 長太郎	同 右河炭礦 大家 巖
同 浪江 青木 久四郎	同 長橋町 關内 半平
同 浪江 佐瀬 常盤	同 同 榮三
同 久ノ濱 松田 良助	同 同 正雄
同 浪江 齊藤 綱一	同 久之濱 木幡 良輝
同 同 昌雄	同 二丁目 根本 トシ子
同 同 榮次郎	同 同 善一郎
同 同 莊三	同 同 忠雄
同 同 筒井 磐雄	同 同 ツネ子
同 同 柴田 大助	同 同 孝三郎

**吉田眼科病院**  
平驛屋町、電話六八番



# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫畫雲

〔第四十九席〕

真庭念流達人櫻井五助

體が粉になる共

六藏は松にくぐられたお  
かめを見て

六「痛からうナ、オイおか  
めさん、お前なんだつて七  
郎次さんを逃したんだ、何  
處へ行つてゐるがその隠れ  
てゐる處を旦那に云へば助  
かるぜ」

かめ「六藏さん、この繩を  
解いておくれ、お前にお金  
を遣るから」

六「叶けねえ、今旦那が  
厭な事を言つた、逃すと貴  
様の首を打ち落とすと、金を  
貰ふは有難いが首が無くな  
れば生きてはゐられぬえ、  
死んでしまへば金を遣ふ事  
も出来ぬえ、オイどうする  
んだ」

馬鹿ですから云ふ事に筋  
が立ちません

かめ「澤山お金を上げるよ  
十兩やるよ」

六「エッ十兩、俺の給金は  
年に三兩だ、十兩と云へば  
三兩より多いや」

かめ「それにね、わたしを  
助けたならばもつと餘計お  
給金が取れて身体の樂な所  
へ世話をして上げる」  
六「それは有難い、酒を飲  
ましてくれるか」  
かめ「それは毎日一杯つ

飲ませるよ」

六「ヒン大した事になるナ  
それでは助けて遣るが十兩  
呉れろ」

かめ「今此處にはありませ  
ん、七郎次さんに渡したか  
らあの人から取つて遣る」



六「叶けねえ、瞞すつも  
りだナ、俺はそんな事には  
乗らぬえ、それとも直に十  
兩呉れろ」

主「六藏何を申して居る」  
云はれて振向くと竹刀を  
持つてそれへ立つてゐるは  
主殿です  
六「これはお出なさいまし

御苦勞までございます」

主「何を申して居る、其處  
を退け、コレおかめ、七郎  
次は何處に居る、それを云  
へ申さぬとあらばからき目  
に遇はせるぞ、云はぬか」

竹刀で膝をピンリと打  
つた、おかめはブル／＼と  
慄へ

かめ「逃がした覺はござい  
ません」

主「又してもその様な事を  
申すか、云はぬか」

又打つた、これを見てゐ  
た六藏が

六「どうぞ勘辨して下さい  
お願いでございます、オイお

つた先を申す事はなりませ  
ん」

主「云はぬか、これでもか」  
と又打つ、衣類は研れ髪  
は亂れ、イヤその哀れなる  
態に無神経の六藏も大いに  
同情して主殿の打下す竹刀  
を押へて

六「まあ待つて下さいまし  
打殺しては大變だ、如何に  
主人なればとて、おかめさ  
んを殺しては濟むぬえがナ  
」

主「賊をいたした者だ、手  
討にすればとて咎めを受け  
る事は無いぞ」

六「まあ助けて下さい、お  
かめさん、おめえは執拗だ  
ナ、七郎次さんの行つた先  
を云ひなせえ」

かめ「知らないよ」

六「まだそんな事を云ふか  
旦那様、責めたところでの  
の様子では白状はしなから  
う」

主「憎い奴だ、六藏此奴を  
土藏に締め込め」

六「ハイおかめさん、今度  
はおめえが土藏に入ること  
になつた、此方へ來なせえ」  
と繩尻取つて引立て土藏  
へ入れ網戸を閉め錠をおろ  
した、主殿は居間に引取る  
こんな事が出来たとは知ら  
ぬ七郎次、直江津に居る漁  
師又兵衛はおかめの實父で  
すからこれへ通れ委細を話  
し五日あまり此處に養生を  
したが漸く氣分を回復いた  
したに就いて其後の様を聞  
かんものと直江津を出て其  
夜の八時頃に高田の町へ入  
つて來た、主殿の住居は城  
下の東を流れる川の岸にあ

る、此處は至つて閑靜、夜  
のこと々て人通りもない、  
おかめはどうなつたかと主  
殿の邸前までまひると

○「オイ、其處へ行くは誰  
だ」

後から聲をかけられて振  
向いた時馳け寄つた其の人  
○「七郎次さんでは無えか  
」

七「オ、六藏か」

六「おめえ何處へ行つてゐ  
た大變な事が出来たぞ」

七「大變な事とは」

六「おかめさんが土藏の中  
に居つてゐる」

七「なんだとおかめが捉へ  
られたと」

六「さうだ、おめえを逃が  
した事が知れて捉つた」

七「どういふ處から露顯を  
した」

六「それには理由がある」  
七「其理由を話してくれ」  
六「町へ行つて一杯やりな  
がら話すことにしよう」  
七「貴様は馬鹿でも酒にか  
けると智慧が出るナ」  
六「一緒に行くう」  
と六藏は七郎次を伴れて  
町へ來ました。

貴金屬

時計及眼鏡類

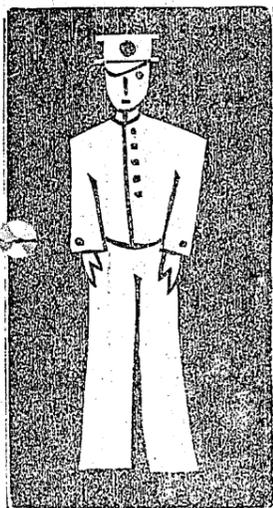
懐中電燈

キミガヨ電気

ランプ特約店

## 高橋時計店

平町掻搦小路



### 夏の通學服

丈夫で輕快な

霜降小倉服  
値段も下記の廉價提供

小學生用……¥0.30  
同〔特製〕……¥1.00  
中學生用……¥1.75

高橋洋服店 平町二〇三

御來店の  
方に一服  
呈上……

香味本位の本場銘茶を  
召上りませ

電三九六番

## 大勝園

香りのヨイ

本場新茶 入荷致しました

◎一斤 二、〇〇一、六〇

### 傘日とルソラパ

美影點の傘日とルソラパ・頭街の日麗

〇四一電 ヤルツ 四平

### の物刷印

### て總は命用御

會社 刷印日每警常

番〇三六話電